

仙台保健福祉専門学校 令和5年度学校関係者評価委員会 報告

学校法人菅原学園 仙台保健福祉専門学校では、本校規定に基づき、令和5年7月6日に、学校関係者評価委員会を開催いたしました。内容につきましては以下の通りご報告いたします。

今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、各委員からのご意見やご指導を真摯に受け止め、教職員一同努力してまいります。

1. 日 時 令和5年7月6日（火）15:00～15:50
2. 場 所 仙台保健福祉専門学校
3. 出席者

【令和5年度 学校関係者評価委員】

	氏 名	所 属 団 体	備 考
1	遠藤 知恵 先生	社会医療法人康陽会 中嶋病院 リハビリテーション部 課長	理学療法科 作業療法科
2	山田 恵子 先生	やまだけいこ歯科クリニック 院長	歯科衛生科
3	大塚 涼子 先生	社会福祉法人 ラ・サール会 児童養護施設ラ・サール・ホーム施設長	こども科

【学校教職員】

校長：眞柳 秀昭 副校長：熊谷 孝一 教頭：横山 さゆり
理学療法科科长：山田 剛 作業療法科科长：佐藤 元彦
歯科衛生科科长：菊地 千代子 こども科科长：工藤 愛美

4. 次第

- (1) 開 会
- (2) 開会挨拶 校 長 眞柳 秀昭
- (3) 議長選出 議 長 大塚 涼子
- (4) 令和4年度自己評価報告 副校長 熊谷 孝一
- (5) 討議・意見交換 各委員
- (6) その他
言語聴覚科新設 令和6年4月開講 申請中
- (7) 閉会挨拶 校 長 眞柳 秀昭
- (8) 閉会

5. 令和4年度自己評価結果とご意見

(1) 教育理念・目標

理学療法科・作業療法科・歯科衛生科の卒業生全員は国家試験に合格し、こども科の卒業生も卒業と同時に保育士の国家資格を全員取得できた。また資格取得分野に全員が就職できたので、本校の教育目標や人材育成像が明確であったという教育の成果と考える。

(2) 学校運営

学校全体でコンプライアンス体制に取り組み、組織構築に反映できている。また SNS に対する適切な取り扱いについての指導を強化している。

(3) 教育活動

各科指定規則に則ったカリキュラムを実施している。教員の資質向上のために研修会の受講や、入職後の大学院での修学を認めている。改善点としては授業評価が学校として統一されておらず、課題となっている。なお理学療法科と作業療法科は第三者評価として（一社）リハビリテーション教育評価機構より認定を受けている。

(4) 学習成果

理学療法科・作業療法科・歯科衛生科の3科すべてが令和4年度国家試験合格率100%を達成できたことは学習成果の表れと言える。また資格取得分野への就職率は100%であった。今後は引き続き退学率の低減に向けて個々の状況に応じた対応を継続していく。

(5) 学生支援

コロナ禍の減少はあったものの、引き続き学生の課外活動は制限された1年であった。日本学生支援機構の給付型奨学金の活用について周知をし、例年通りの申請・認定状況である。また本校学食とタイアップした食券の支給が学生から大変好評であった。改善点としては、卒業後の支援体制が構築されておらず、卒業生からの問い合わせや訪問があった時に随時対応している現状なので、リカレント教育など学校から発信できるものを企画することが考えられる。

(6) 教育環境

新型コロナウイルス感染症への対策として健康行動記録・検温・手指の消毒・三密防止・黙食指導を継続した。また臨床実習は昨年と比べ校内実習に振替えるケースが少なくなり、従来の臨床実習に移行できている。地震に対する防災対策として避難訓練や仙台市のシェイクアウト訓練を継続し、危機管理意識の向上に努めた。

(7) 学生募集

昨年と比べ、募集活動はコロナ禍に影響されずに実施することができた。ホームページで情報を発信しながら、オープンキャンパスへの参加を促した。

(8) 財務

学園の HP 上で公開している。建物・備品等の経年劣化が認められる場合は、早急に補修や入れ替えを検討しているので改修費用が必要と考え、計画性をもって予算化を行った。また、学生募集については引き続き重点目標として取り組む。

(9) 法令遵守

本校の教育は厚生労働省の養成課程であり、法令・設置基準の遵守と適正な運営を行っている。また、自己評価結果はホームページ上で公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

コロナ禍によりボランティア活動への参加ができなかった。社会貢献として歯科衛生科が教育訓練給付制度の認定を受けたので、社会人経験者への財政的支援の1つと考える。

委員より、退学率の低減という視点で成績不良者への指導について厳しすぎるという事はないかという質問があった。教員より、すべての科の目標が国家資格取得であり、指導する教員も有資格者であるからこそ、現場で求められる知識・技術・対応能力の必要性を熟知している。今後も1年時の基礎学力向上プログラムを各科で実施し、面談等で学生に寄り添いながら学力向上に努めていきたい。

その他、給付型奨学金についての質問とボランティア活動についての質問があった。

総括：令和4年度もコロナの影響で一部制限された学生生活となったが、徐々に日常性を取り戻しつつ、退学率の改善に向けて取り組んでいく。